

アフガニスタン- 脆弱な状況に置かれた人びとに必須のSRHおよびMCHサービスの改善

2024年1月-2025年6月



背景

何年も続く政情不安、紛争、2021年の政権交代により、アフガニスタンの保健・医療システムは壊滅的な打撃を受けてきました。女性の移動制限、経済崩壊、各種サービスの悪化で数百万の人びと、特に過疎地や災害被害地域の女性や女兒は、必須の保健・医療サービスへのアクセスを失っています。

本プロジェクトは、母子保健(MCH)およびリプロダクティブ・ヘルスケアへのアクセス強化により喫緊の課題に取り組み、サービスが行き届いていない5つの州、カピサ、バルフ、パルワン、ロガール、ラグマンを対象としました。特に、洪水や極度の貧困の影響を受け、大半の医療施設がアクセス不能、または機能停止している地域に重点を置きました。

主な成果



必要不可欠なSRHサービスに
アクセスした人数

71,477人



提供されたSRHサービス

141,946 件



産前サービスを受けた妊婦数

12,184人



安全な出産

667件



心理社会的支援を受けた女性
や女兒の人数

1833人



乳がん・子宮頸がん検診
を受けた女性の人数

7343人



栄養支援を受けた妊婦や子ども
の人数

3601人



IPPFアフガニスタン (AFGA) 母子
保健プロジェクト (YouTube)

プロジェクト概要

本プロジェクトは日本政府の支援を受け、IPPFアフガニスタン (Afghan Family Guidance Association: AFGA) によって実施されました。プロジェクトでは、5つの州の脆弱なコミュニティで命を救うリプロダクティブ・ヘルスケアサービスを提供しました。本取り組みは、常設診療所およびコミュニティベースの保健・医療システム、とりわけファミリーヘルスハウス (FHHクリニック) の機能を強化することにより、アフガニスタンで最も医療サービスが届きにくい地域の妊産婦・新生児ケアおよびリプロダクティブ・ヘルスの向上を目的としました。

プロジェクトでは過疎地域の60軒のFHHクリニックと、洪水の被害を受けたロガール州に新設された家族福祉センター (FWC) を通じて必要不可欠なSRHおよびMCHサービスを提供しました。すべてのFHHやFWCは、2024年7月から11月にかけてプロジェクトの一環として運営されました。

提供されたサービスには、産前・産後、分娩ケア、妊娠合併症治療などがあります。プロジェクトでは、LARC (長期作用型可逆的避妊法)、性感染症 (STI) 治療、心理社会的支援へのアクセスも拡大し、カウンセリングやリファラル (紹介) 制度を通じてジェンダーに基づく暴力 (GBV) サバイバーに特化したケアも提供しました。栄養失調の子ども向けの栄養支援サービスも規模を拡大し、専門のモニタリングツールやコミュニティのフィードバックシステムによって、プロジェクト全体の品質と信頼性も確保しました。

主な活動



- IPPFアフガニスタンは、カピサ、バルフ、パルワン、ロガル、ラグマンの5つの州で60軒以上のFHHクリニックを運営し、60人を超える女性の助産師を派遣しました。ローガル州のプリアラムには支援によってFWCが新設され、洪水被害を受けた地域における臨床的SRHおよびMCHサービスへのアクセスが拡大されました。
- 本プロジェクトは目標値を超え、幅広い母子保健およびリプロダクティブ・ヘルスケアサービスを提供することができました。これには、産前・産後ケア、安全な出産、子癇や妊娠高血圧腎症などの妊娠合併症への対応があります。さらに、女性や栄養失調の子どもには栄養支援サービスが提供されました。
- 家族計画支援サービスでは、短時間・長期作用型など多様な避妊法が提供されました。出産間隔を空けることや、女性の生殖に関する自己決定権を支援するための避妊法として、長期作用型LARCやIUD(子宮内避妊用具)、避妊インプラントなどの選択肢があります。
- GBVの被害に会った女性や女兒には、心理社会的カウンセリングおよびサバイバー支援サービスが提供されました。
- 国連児童基金(UNICEF)との協力の元、重度の栄養失調に陥った子どもを治療するための栄養治療食(RUTF)が配布されました。
- サービス提供拠点(SDP)全体の品質と信頼性を確実にするため、堅固なモニタリングと監理の計画が開発・導入されました。信頼性強化、サービス対応力向上のため、責任の所在を明確にするシステムを通じてコミュニティのフィードバックが積極的に収集され、活動に反映されました。

マルジア、カピサ

「私たちは砂漠の過酷な環境で暮らしています。命を救うため、神が助産師を私のもとに送ってくれました。FHHクリニックがなかったら、必要な治療を負担することすらできなかったでしょう」

ザハラ、カピサ

「IPPFアフガニスタンのFHHクリニックで家族計画の方法の一つである避妊注射を受けられてよかったです。健康状態が良くなっただけでなく、ポジティブな気持ちで生きられるようになりました。有益なリプロダクティブ・ヘルスサービスを提供してくれたIPPFアフガニスタンに感謝しています」



日本政府支援プロジェクトの一環として、栄養失調の検査を受ける乳児



日本政府支援プロジェクトの一環としてFHHクリニックで診察を受ける母子